

一般関係

0004

官報辨外

大正十二年  
九月三日

印刷局

朕大正十二年勅令第三百九十八號ノ施行ニ関スル  
件、裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
御名 御璽

攝政名

大正十二年九月二日

内閣總理大臣伯耆内田康哉  
陸軍大臣 山梨半造

勅令第三百九十九號  
大正十二年勅令第三百九十八號ニ依リ左ノ區域ニ  
戒嚴令第九條及第十四條ノ規定ヲ適用ス但シ

0005

同條中司令官ノ職務ハ東京衛戍司令官之ヲ行

7

東京市、荏原郡、豊多摩郡、北豊島郡、南足立郡、南葛飾郡

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施ス

0006

官報號外

大正十二年九月三日

印刷局

朕茲緊急ノ必要アリト認テ帝國憲法第八條ニ依リ一定ノ地域ニ戒嚴令中必要ノ規定ヲ適用スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

攝政名

大正十二年九月二日

農商務大臣	內務大臣	司法大臣	陸軍大臣	鐵道大臣	外務大臣	內閣總理大臣
荒井賢太郎	水野鍊太郎	岡野敬次郎	山梨半造	大木遠吉	內田康哉	內田康哉

大藏大臣 市村正房  
 文部大臣 鎌田榮吉  
 逓信大臣 前田利定  
 海軍大臣 財部彪

勅令第三百九十八號  
 一定ノ地域ヲ限リ別ニ勅令ノ定ムル所ニ依リ戒嚴  
 令中必要ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

0008

朕大正十二年勅令第三百九十九號中改正ノ件  
ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

攝政 名

大正十二年九月三日

内閣總理大臣 伯爵山本權兵衛  
陸軍大臣 男爵田中義一  
海軍大臣 財部 彪

勅令第三百九十九號

大正十二年勅令第三百九十九號中左ノ通改正ス  
「東京衛隊司令官」ヲ「神奈川縣横須賀市及三  
浦郡ニ在リテハ横須賀鎮守府司令長官、其  
他ノ區域ニ在リテハ関東戒嚴司令官」ニ、東京  
市及在東京郡豊多摩郡北豊島郡南足立郡南葛  
飾郡ニ在リテハ東京府神奈川縣ニ改ム

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

0010

朕関東戒嚴司令部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布  
セシム

御名 御璽

攝政 名

大正十二年九月三日

内閣總理大臣 伯爵 山本權兵衛  
陸軍大臣 男爵 田中義一

勅令第四百號

関東戒嚴司令部條例

第一條 関東戒嚴司令官ハ陸軍大将又ハ中将ヲ以

テ之ニ親補シ 天皇ニ直隸シ東京府及其ノ附

近ニ於ケル鎮戍警備ニ任ス

関東戒嚴司令官ハ其ノ任務達成ノ為前項

ノ区域内ニ在ル陸軍軍隊ヲ指揮ス

第二條 関東戒嚴司令官ハ軍政及人事ニ関シテ



ハ陸軍大臣ノ區處ヲ受ク

第三條 関東戒嚴司令部ニ左ノ職員ヲ置ク

參謀長

參謀

副官

主計

軍医

陸軍司法事務官

下士判任文官

第四條 參謀長ハ関東戒嚴司令官ヲ輔佐シ

事務整理ノ責ニ任ス

第五條 參謀、副官、主計、軍医及陸軍司法事務

官ハ參謀長ノ命ヲ承ケ各擔任ノ事務ヲ掌

ル

第六條 下士判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務

ニ版ス

附刻

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
當分、内東京衛戍司令官ノ職務ハ之ヲ停止  
ス

0013

横須賀

横須賀鎮守府被害調査書

大正十二年九月十一日午前十一時五十五分突然猛烈に地

震あり建築物破損甚く死傷者多数あり其ノ被害ノ程

度大略左如し

一 鎮守府

建築物

死傷

大破の勢到底不可能  
筆生一名圧死 重軽傷数名

二 工廠

建築物

死傷

約半数倒壊機軸大破七二、少者又  
即死四十名重傷四十四名軽傷十二  
名行衛不明五十六名

三 砲術学校

建築物

死傷

倒壊(山崩)為二棟  
重傷三名中一名危篤軽傷約十名

四水雷學校

建築物

約半数被損  
ナシ

五機關學校

建築物

殆ど全焼  
死者二名 輕傷數名

六海兵團

建築物

新兵舎全焼  
死亡一名 輕傷六名

七病院

建築物

全部焼失  
患者要塞司令部  
避難

八航空隊

建築物

一名重傷後死亡一名重傷  
飛行機大部分被損使用不能  
ナシ

九防備隊

建築物

ナシ

建築物 殆りト全部破損

港務部 死傷

建築物 損害大ナリ

二又 死傷 庫

建築物 大部分倒壊破損使用堪エス  
死者一名重軽傷者数名

三 刑務所 建築物 殆りト全部破損收容容堪エス

一五 在港艦艇 死傷 ナレ

入渠中 潜水艇二隻側倒死傷者ナレ  
建造中 天城ハキール 波状ニ出曲其他

一四 重油タンク 殆りト破害ナレ  
相埒重油タンク 亀裂シテ重油流出強震

0016



後間(ミナ)ノ發火、煤油約八萬五千噸焼失  
 尚附近堆積ノ石炭ニ類焼シタルモノ日ノ  
 今日漸々消火セシメタリ  
 本調査情人員ノ死(今日迄ノ判明セモノ四丁六名)傷  
 數、各勤務所ニ於ケル罹災者ノミレテ  
 出先ニ於ケル死傷者ニ以テ以外ニ多數ヲ見  
 之  
 右ノ外山崩レ地盤陥落等、損害甚多  
 ニ違アラズ

(終)

第五方面

横須賀鎮守府構内營造物農火災情况報告

横須賀方面建築物部

一 鎮守府

廳舎(煉瓦造)ハ大破ヲ使用ノ見込無ク、木造建造物ハ瓦テ傾斜又ハ半倒壊内復旧ノ見込アルモノ約半数、煉瓦造建物ハ全壊ナリ。

一 工廠

廳舎(煉瓦造)ハ壁体亀裂甚シク使用ノ見込ナシ、工場ノ被害ハ大要左記ノ通り、

鉄骨造ハ造棟部様様工場半分倒壊シ其他毫被害ナシ

鉄骨造ハ造棟部様様工場半分倒壊シ其他毫被害ナシ、木造約三分一無事、其他半倒

煉瓦造ハ一三使用見込、モアルモノ其他全部倒壊

毎

事

(西洋金銀十三行郵券)

0018

經理部及建築部

廳舎(木造)無事、附屬家等多少倒壊、セメント試験場及工夫詰所焼失。

軍需部

廳舎(木造)屋根瓦脱落之多少傾斜セルモ復旧ノ望アリ、其他木造家屋約半数復旧見込アリ、他ハ全壊シ、使用見込ナシ、煉瓦造ハ全部倒壊。

港務部

廳舎(木造)初ノ約半数ハ屋根瓦脱落其他等ミテ大破無ク修理見込有リ。

砲術學校

廳舎、兵舎其他建物ノ大部分ハ多少破壊セルモ修理スレハ使用見込有ルモ過半ノ点ハ。



一、機關學校

廳舎、兵舎其他大部分焼失、残りノモノモ大部分大破  
使用ニ耐ハズ、只製罐工場(鉄骨造)ハ修理セズテ使  
用ノ見込有リ、

一、海兵團

一部分焼失、庁舎及兵舎二棟ハ残存セルモ何レモ大破大  
修理ヲ要ス、只機關工場(鉄骨造)ハ修理未キ基礎一部  
破壊ニ止ル、

一、病院

庁舎其他殆ド全部焼失、只機關室外二棟煉瓦造ハ  
一部破壊、自動車置場ハ安全ナリ、

一、軍法會議

庁舎其他凡テ大破セシモ大修理セハ使用見込アリ、

毎

五

0020

一 刑務所

庁舎外三棟小破其他教誨室監房及周圍煉瓦塀等  
全部倒壊

一 官舎

使用ノ見込アルモノ約半数

土木學造物ノ部

一 港務部

港務部裏山約二千坪崩壊、海岸線大半潰壊

一 軍需部

海岸石垣全壊

一 工廠

各船渠概テ全無事、海岸線大略潰壊米二船台各舟

神島神四ノ下

0021

<p>沈下天城約一米渠口稼動ガドリクレーン無事、          第三船台潜水艦船台各舟亀裂スモ使用ニ差支ナキ見込、          磯装岸壁潰壊二百噸クレーン無事ノ見込、          小海軍油タンク無事使用ニ得ル見込、          火災患ニ山地各舟崩壊</p>	<p>機関並み舟</p>	<p>海岸石垣半壊、裏山崩壊、護岸築造工事々務所焼失</p>	<p>海兵團</p>	<p>海岸石垣大半潰壊</p>	<p>砲術學校</p>	<p>海岸石垣一部崩壊、山地各舟崩壊</p>	<p>大砲発射場</p>	<p>横速機室倒壊使用堪はず射撃外概テ無事、          山地各舟崩壊</p>
---	--------------	--------------------------------	------------	-----------------	-------------	------------------------	--------------	--

毎  
五

0022

箱崎重油タンク

山形各所崩壊、海岸石垣崩壊、

重油ハ地震ノ激動ノ為メ流出、工廠作業ノ火ニテ火災ヲ起シ

重油約三萬噸ヲ残シ、燒盡シ六千噸タラ、四個無事、他ハ

概シテ火災及地震ノ為メタンク各部破損、使用ノ見込ナシ

煉瓦一部燒盡、堀割ハ山地崩落ノ為メ航行不能

水道

鉄管線、鉛線各所破損、送水塔分見込ナシ

逸見浄水池約八千噸アリ、走水水道、送水管各所破

損

0023

田浦方面進軍報告、部

一 軍需部、長浦倉庫

事務所、大体無事、飛漆喰壁、剥落、大破

各火藥庫、彈丸庫、倉庫、共五分通、倒壊又、大

破損、家屋、瓦、鉛、金、部、剥落、煉瓦造、倒壊、大破

一 水島小学校

殿下御一宿舎、窓、宿舎、無事

片妻女子生、食料、地盤、八寸陥没、セ、モ、危、険、無、事、壁、八分

通、屋根五分通、破損

倉庫、食料、灌漑、大、体、無、事、十、分、文、字、板、及、貯、土、玉、子

大破損

燃料、溝、土、思、需、溝、土、古、建、物、及、通、信、科、機、具

水、重、砲、基、礎、大、破、強、く、使、用、見、込、ナ、シ

毎 日

0024

題下倉庫 其他「強」全部倒壊又「大破」

一 遺物

倉庫の各々終「鉄骨」又「鉄骨」は「強」全部無事  
積置物、製衣園子等、煉瓦造木造、又「強」全部

倒壊又「大破」

一 防衛隊

倉庫の倉庫倉庫 題下倉庫 概々無事、但し

兵舎「連中」等、強固な生々

水筒倉庫 倒壊、其他水筒調整各々倉庫「大破」

強固な倉庫、使用、見込無し

一 航空隊

倉庫及兵舎、機及附属各々物、現存、又「強」  
漆喰壁「大破」又「剥落」但し修復使用ノ見込アリ

0025

西洋全圖十三行軍統

兵舎一棟ニ階中一却甚しく傾斜ニ危険ナリ

格納庫ニ大穴現存ナルニ大礙ナ但シハ今更ニ修繕使用

見込アリ(要スルニ低値設けを對シテハ水害ヲ救護

航多隊兵舎ヲ応急修復又ハ仮設スレバ大ナル危険ナリ

也(水害ヲ救護通信溝等主(海軍部海軍部平家主)至急復旧

西メ  
アリ

田浦方面土木急進物アリ

一長浦

長浦水道新切割兩側山地崩落セシ者ノ全部埋没

行基池平一石埋半壞

兵舎庫一海軍部石埋半壞

兵舎庫一突堤全壞

兵舎庫一石埋全壞

毎  
軍

0026

一、水防部之救

護岸石垣全壞 海岸石垣半壞

一、造田部

於地盤造成工事一由地下水及水路半壞、橋梁全壞、  
亦因前護岸石垣無事、海岸石垣全壞、  
造田部一部破損

一、防衛隊

海岸石垣半壞、突堤全壞、  
一箱壁  
海灣、  
後海岸石垣半壞

五、重山、火事、  
前海岸石垣全壞

一、天洪部、  
炭場

海岸石垣、  
路、  
全部破壞

一、遠距離、  
魚雷、  
被炸





其最々多々個蓋に於て約十三尺沈下し覆裂あり  
蓋にスル個蓋あり

尚其事用方惣敷造り等々各倉庫共金部

傾斜し來り陸上落せり其他護岸棧橋軌道等

其他使用・堪えんモノ皆無下謂フ・外々々係り及

材料・格別・被事あり

一魚雷發射機(増設工事)

照燈のこゝに調整塔・沈下し高し高し各所

覆裂を生じたり

全倉庫・金部・覆裂したり上部樫・掘付等あり

見張所・高し生じたり

内外部共煙突・照燈等・知照塔・傾斜・地盤

陥落し金部修理不可あり

西洋全圖一三行部紙

一防休隊海軍一設隊(工事中)

海軍石垣、金部、鄭州、破壊、埋、地、陷、山、地

、前、壞、シ、タ、ル、ニ、テ、殊、ニ、甚、ク、シ、

一航、六、隊、地、振、張、(工事中)

埋、米、四、分、一、壞、シ、即、々、金、面、ニ、於、テ、一、尺、一、凹、凸、シ、生、ス

甲、陸、初、地、全、夜、面、凹、凸、シ、生、ジ、乙、丙、陸、石、垣、金、壞、シ、

水、路、半、一、壞

一憲、隊、航、海、海、軍、設、隊、(工事中)

埋、築、半、壞、凹、凸、シ、生、ス、石、埋、全、壞

右、工、事、用、材、科、男、兵、損、害、セ、リ、

一福、崎、特、設、隊、(工事中)

埋、築、面、為、三、分、一、流、失、ス

飯、飯、物、及、男、兵、損、害、科、流、失

一

一

0030

敷島船塢の長さ四十六丁の高方塹七段積の埋設工事

船塢の塹の倒壊の見た

海軍関係官造物

一水工社

本館(本造)周壁破損セルの復旧の見込あり附属倉庫

傾斜壁の大修繕セルハ使用不可既而他大破使用

見込あり

一海友社

建物壁の傾斜セル屋根瓦脱落ス修理セル使用不可

一海友社

金庫

一土木建築業者

八分通の倒壊

0031

供養

軍務局

軍需局

大正十一年九月二日

宇治川横須賀艦隊司令部

甘肅田海軍省副官殿

日報

九月二日

一、病院全焼、今朝日、砲術、椰子校、収容所、宛ツ

二、三笠ヲ刑務所、収容所、宛ツ

三、甘肅、椰子校、東習生、収容所、宛ツ

四、安部、航空隊員、収容所、宛ツ

五、榛名ヲ傷者、術艦、宛ツ

0032

富田

海軍

六、神威ヲ四日市ニ米穀買取ニ派遣ス

七、五十鈴及初由相御旨ヲ横濱ニ派遣シ為備

一七、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百

八、晴雨ヲ鑑念ニ派遣シ賀陽宮大妃殿下

階宮妃殿下ノ東京御帰還御乗用亮

ツカ之浦入港時刻ハ定ヨリ次第同艦長ヨ

直接貴官ニ通信ス

九、市ノ敬察、白鳥兵、鎮守府、要官自令部

連合協定ノ上白米収用ノ臨機處理ヲ採リ

市民ニ公平配合法ヲ行フ

一〇、志水水源應急修理努力中

一一、空水船八隻明ニ百年前ノ時出沒也シ

一二、五ヶ年無線電信機倉庫一破壊埋没使用

0033

不可能

一、軍需部側道路、山崖崩レ、為全部濕

没倉庫、一部埋没ス

一、四、米倉庫側、壊

一、五、ビスケット、百竹、不敷、取、應、急、救、助、ト、テ、市

側 = 交付

馬  
日  
六、ガソリン、三ト、明、三日午前八時、焚、水、船、便、多、ク

浦、向、ケ、焚、送、ノ、豫、定

松、五、重、中、尉、身、ヲ、被、傷、譯、由、(馬)

中、尉、死、ス

定、在、申、ス、貴、方、側、ノ、状、況、船、中、各、部、ヲ、備、多、ク、中、ナ、ラ、ズ、モ

時、ニ、概、報、通、行、便、ニ、地、々、ニ、及、ビ、各、部、中、出、発、ス

常、務、本、部、ニ、行、概、テ、報、知、セ、リ、

日  
一  
五  
三

5

九月二日付

榎本司令長官

海軍次官殿

電報

明治二十八年八月廿八日午後八時出陣ノ旨ニ付  
芝浦ニ送ル

芝浦ニ送ル

海軍

藤田

0035



別紙

送

別

軍務局

供覽

商田

横鎖米穀密第4編

大正十二年九月一日

横鎖米穀密第4編  
商田  
横鎖米穀密第4編  
商田  
横鎖米穀密第4編  
商田

海軍大臣 財部 魁 慶

一、横鎖米穀密第4編  
但秋野泳艦長提出一分  
通

右提出

別紙 通係

別紙

海軍 送

官房受

0036

廿秋 駆逐艦長 鈴木田 幸一 造  
第十五駆逐隊司令及川 善志郎 敬

午前十一時横浜港外着 防波堤崩壊し港内海面之魚  
油溢出盛之燃エソソアリ 港務部長東 艦直ケニ陸上ニ出  
官ヲ派遣セテ状況ヲ視察セシム 港務部長一談及收書  
士官ノ視察セシム状況ヲ綜合スルニ左ノ如ク  
一昨日午前十一時五十分(東京ニ連ル)ト約五分(カカ如ク)  
激震防波堤螺旋関ヲ破壊セ余市ノ家屋倒壊セ  
螺破諸所ニ起リ不逞 鮮人ノ放火ト相俟ワテ全  
市出ノ煙ト比セ市民ハ最初山ノ平ニ 避難多 余ノ如  
ク火ノ阻ルテ死傷數知ラズ幸ニ火ヲ煙岸ニ引キ退セ  
避難セシムる一節ハ在泊内外商船ニ収容セシム便

松足之宮曲の地へ7、海而之流レ溺死焼死多ク数ヲ  
出セリ

云、現在神奈川県方面ト磯子久保山ノ一部ヲ除ク、外全  
市全滅セリ

云、現在船舶之収容見解難民大約一万収容船ノ操

水糧食ノ数日間ヲ支工得ニ止メ而モ尚解難民

要死云々ノ續々々ノ様様ナリ

四、昨夜来鮮人ノ暴徒約三百名市内ニ現レテ虐殺

放火掠奪ヲ行ヒ今尚市内通行ハ危険ヲ武裝

ヲ要スルナリ本牧方面ト其ノ全郡鮮人ノ放火ニ

係ルナリ

五、官民ノ連絡杜絶セ知事ノ市長等ノ行衛ノ全ク不明

云、現在陸兵ノ解難民ノ支子ヲ左ノ個所ニ集メテ

一 如七

一 山下海岸埋去地

二 根岸繞号場

三 磯子海岸

四 久保山

巡查一言に依り糧食等補給を行つたるに磯子海岸

より不足最に候し

七、港務部長より海軍に請ふ要求左ノ如ク

一 糧食情水ノ貯蓄

又 捕鯨船等間ノ無線通信連絡

二 港内ニ已運転不自由ナル高船救助ノ為其船ノ撤

出

港務部長ノ假事務所新船三島丸

海軍

九、倭兵無源電信所ヲ設置スルニトモ山下ノ埋立地跡ヲ  
適当ナト思考ス

2/2

0040

供覽

大正

岡田

軍務局

別

横鎮 災機密第一二號

大正十二年九月三日

横須賀鎮守府司令長官野間口兼雄

海軍大臣財部彪殿

一横濱港教言備報告

但石渡五寸鈴艦長提出分

右報告ス

(別紙添)

一通

(終)

藤田

海

軍

0041

第二信

大正十二年九月二日 五十鈴艦長石渡武彦

横濱支鎮守府司令長官野向口兼雄殿

陸戰隊報告

午後十時半 磯子根岸間ノ入幡橋ニ陸ス

代表者ノ談ニヨリハ市民ノ大部ハ根岸及磯子附近ニ

避難セル由ニ三百名ノ不逞鮮人附近ノ山地ニ潜伏時々部

隊ニ出入被宥甚シ市民ハ之ヲバルケザント称シ恐怖甚シ

キ模様ナリ依ツテ本隊ハ先ツ市民ニ安心セラルル必要ヲ認

メ避難民ノ多キ地方及被宥大ナル地方ヲ刺以テ吹キツ、行

軍ヲ市民歡呼シテ喜ブツ見レハ餘程不<sub>安</sub>ニ龍巻ハレ

居ルニ<sub>レ</sub>ト認ム避難民ノ數五方万人官憲ノ保護ト

シテ川 査ニ三名ニ過キス主トシテ在郷軍人青年團

海軍

0042

等 終 戒 二 任 二

高流言<sup>ニ</sup>依<sup>リ</sup>シ<sup>ハ</sup>程ヶ谷附近<sup>ニ</sup>行<sup>テ</sup>悪化<sup>セ</sup>ル<sup>ニ</sup>鉄道工吏<sup>ハ</sup>鮮

人<sup>ニ</sup>二百名<sup>ハ</sup>在<sup>リ</sup>郷軍人<sup>ニ</sup>追<sup>ハ</sup>レ<sup>テ</sup>碓子方面<sup>ニ</sup>潜伏<sup>ス</sup>ト又<sup>ハ</sup>樽

コ<sup>ノ</sup>シ<sup>ハ</sup>不逞<sup>ノ</sup>鮮人<sup>ハ</sup>本部<sup>ハ</sup>東神奈川方面<sup>ニ</sup>在<sup>ル</sup>モノ<sup>ノ</sup>如<sup>ク</sup>

時々<sup>ニ</sup>三百名<sup>ハ</sup>一隊<sup>ヲ</sup>ナ<sup>シ</sup>テ<sup>ハ</sup>龍谷<sup>ヲ</sup>ト

海 軍

0043



(第百三)

横濱長良宛

五十鈴船長共後

九月三日

報 光

磯子在住現設中村赤兵衛大尉を不逞鮮人カ火薬庫ノ爆  
 破或ハ五十鈴以上ノ集結ニシテ避難民ヲ脅カス等ノ事ノ凡ク流  
 害ナリ只今ヲ置ク又朝鮮軍人(上等兵)ノ言ニテ朝鮮軍人ノ集結  
 程ヲ為シ戸部方面ニテ多シク殺シタリト云フニテ市民怒リ鮮人  
 ナリト云フ程セシトシテ尚緩ム方面ニ於テ自ら固執シタリ云々  
 ハニ云名宛地トシテ放火レ市民ノ為メ殺シタルヲ見タリ鮮人  
 トシテアルニシテ鐵ヲ持テ市全部ヲ燒ク事思ハスト云也  
 第一度磯子方面トシテ一組トシテ襲ヒタルニテ短銃ヲ所持セ  
 ル者ヨリテ社会ニ義者一名田中ノ鮮人ヲ牽引シテ刺戟シ  
 ニ不逞ヲナサレタリ此ノ名義者ハ半程ニヤラシ根岸利務所  
 開放ノ因ハ凡ク市民ノ味方シ鮮人ヲ疎擧シテアリ

0044

避難民中 根岸・碓氷方面に逃  
 レルモノハ比較的食糧  
 二困乏ナル公認 根岸競馬場等  
 二避難シタルモノハ食糧  
 困乏ナリ 且下知事市良等  
 中心人物ト故支離  
 減収ノ状態ニシテ

(終)

0045

大正十二年九月三日

第八師部隊、第一信

一、火災ハ下所全部ニシテ今朝大幸鎮火ス、震度火ニヨリ  
火出方ヨリモ鮮人ノ放火ニ見出火多キカ如シ

一、不逞鮮人ト称スルモ悪事(放火、強盗、強姦、押水、  
毒水投入)ヲ為ルハ土工等ノ一人者ニ多ク僅ク徒黨ヲ

組シ奉り銃ヲ少シク持ツモノアリシモ陸軍隊上陸多ク散シ  
今ハ一、二人ヲ出沒(夜間ニ多シ)スルノ、鮮人ニ對シ私刑

盛ナリ、家族ヲナスモノハ内地人ト共ニ同シ(鮮)難所ニ  
アルモノモアリ彼等ノ悪事ハ一部社會主義的モノトモ

多ク糧食飲料水ノ欠乏ニ原因スルモノ、如シ  
一、内地人(鮮)難民ハ高台ノ本牧、中村、戸部方面ニ大体

北

0046

海軍

集團とて食の屋ノ如ク造ラ其ノ中ニ少撥ル  
ノ大多数 戸部方面ニ未視察、木牧ハ糧食  
井水缺乏、中村ハ幸ニ井水ハ割合ニ多シ、各辭館  
所共糧食ヲ心配シワ、アリ、船渠倉庫ニ米アリト  
聞ク陸戦隊ノ上陸ニ及、人心ノ動揺ヲ鎮撫セシム  
ヲ得タリ

0047

此際大至急聯合艦隊ヲシテ九州方面  
方面ヨリ米穀ヲ東亞海運ヲ輸送セシメテ  
此ノ下ノ陸軍急事ト認候  
横須賀鎮守府司令長官

海軍大將 野間口兼雄

0048

大演習ヲ取止メ其經費ヲ廢棄善反  
ニ倣用セシムトシテ  
神威ヲ伊勢ノ海ニ出スルハ又ノ米ヲ輸送

海軍

模造半葉十一行野紙

(納堂心誠)





海軍

横濱牛乳十三行野紙

五才三停海艇ノ後照像電信所ノハ未定也

膠州新長コノ軍務局一課長ハ

一、群島物産調査ハ未タ取止ルコト決メタル事ハ此等

艦内ノ軍用器械等ニ出テ下ス

二、建造長タル者ヲ送ル

三、天候ナルコト要クナリツルアリ

(宮井納)

0051



9  
U

無線電信傍受信記録

時刻	送信所	受信所	送信人	受信人	信文
九月三日 前八時三十分	阿蘇	東京	横濱参謀長	海軍次官	小田原敬警察署長ヨリ便言 レ内院ノ宮殿下御一行中姫宮 御方震災ノ為メ御重傷ノ由ヲ 宮殿下ニ至急御時京アセラ レタキ御希望ノ趣キナリ右對 レ駆逐艦一隻派遣方目下準備 中ナリ右取アヘズ
全三日 前六時	阿蘇	膠州	吳鎮華参謀長	軍務局長	沼津ニテ汽車運行沼津横 浜汽船ニテ連絡
全三日 前八時	阿蘇	東京	野村浩平隊長	海軍次官	當隊九月廿夕刻舟山列島 岸左如ク行動ス長門金剛



0052

後。全三〇 六	春日	東京	大湊司令官	海軍大臣
後。全三〇 三	阿蘇	膠州	横鎮副官	海軍省副官

若宮ニ水戦ヲ横濱ニ伊勢日向  
ヲ吳ニ三戰隊ヲ大阪又ハ神戶名  
取由良ヲ名古屋ニ惣怒長良  
一水戦ヲ全シ清水ニ陸奥霧島比  
敵ヲ佐世保ニ潜水隊及十二駆逐隊  
ヲ吳ニ廻航セシム尙横須賀ニ直航  
九月五日午前着ノ予定  
千早及貴船丸ヲレテ小樽ヲ救  
制物件ヲ搭載シ横須賀ニ急行  
セシム千早ハ七日頃着ノミヨシ  
私用上京中ノモシテ末ガ帰任シ  
得テモ海軍省ニ出勤セシム通信  
機材着便ヲ知ラズテ吳副官

0053

全三日 後四一五	阿蘇	船橋	横鎮長官	海軍大臣	第一三信五平鈴艦長指揮ノ下 二十五鈴及第八駆逐隊ノ二隻ヲ 横濱通航セシテ臨機回港ノ整備 ノ任務ニ就事セシムル共東京 横須賀方面
全三日 後四一五	阿蘇	東京	時雨艦長	海軍省副官	本艦午後四時半品川沖寄港 第三砲台、S.W.三哩地莫着テ 定
全三日 後四三〇	船橋	東京	船橋電信所	東京電信所	船橋送信所襲撃ノ想ヲ去意 救護頼山騎兵一隊應援来 ル者十九元未外未ラス

全四日 前八日	全四日 前七日	全六日 後八日
山城	天龍	富士
阿蘇	萩	萩
山城總長	天龍總長	赤松總長
海軍省副官	海軍大臣	橫濱總長 大船總長 幕府副官
改手援護人爲人派遣云	百枚格敷	後七時品川着
幕三張小天幕十五張毛布	野藏奥肉五千貫千人收答天	關州ヨリ電轉電以關州横濱
		着春候夕明朝テテ陸軍兵
		横濱揚陸セシ難芝浦着
		八四正午ト云ハ關州特務總長
		三午午十一時
		一本艦中定ラ莫更レ品川沖ニ
		着港明四日午八時着中定
		一救難用ノ中乾麵起三千貫

全四日  
前九三〇

阿蘇

救

水産学校  
海軍省副官

東京中外池袋大原一〇〇石

全四日  
前九三〇

山城

阿蘇

山城艦長

海軍省副官

本艦直に出港に付キ左件御

然可ク頼ム

大阪商船會社より依頼アリ

配入ノ船及船準備(頼ム)

ヲ兼セ本品品川沖着陸揚子手

シヨ丸ニ糧食救護等及同材料

然ルベク頼ム

ヲ頼ム旨南船より依頼アリ

着揚陸ノ手配(船及船準備)

及同材料ヲ載セ本品品川沖

着陸シカガ丸ヨリ糧食救護班

頼ム大阪ヨリ援護ノリ派遣

0056

全四日 前一日	富士	阿蘇	時雨艦長	海軍大臣	本日午前七時半横須賀乗九 時過ぎ品川着	橋本家石橋大尉旅館横 須賀館に於震災、多人死去 三台半揺出し夕刻火葬ニシ 骨本枝安置ニシ
全四日 後三日	富士	阿蘇	富嶽艦長	海軍省	江尻英品川着 鉄道局長へ ガラスゴウ丸着	
全四日 後四日	春日	阿蘇	春日艦長	海軍大臣 横須賀長官	横濱着	
全四日 後九日	船橋	一般			八時半 鮮人三百船橋 海岸上陸危急迫ル	

0057